ＪＲ東海労ニュース

№２１４２
２０１７年1月9日
ＪＲ東海労働組合

在来線にホームドア設置、やっと今頃
安全対策はリニアの二の次！？

昨年12月14日付『中日新聞』などの記事により、名古屋市の東海道線金山駅と刈谷駅に転落防止用のホームドアを設置することが明らかになりました。ＪＲ東海の在来線では、初めての設置となります。

名古屋地本では、かつてから多客が利用する在来線駅のホームドアの設置を要求してきました。また本部でも、協約・協定改訂交渉の要求項目にもあげてきました。これは、動いている列車に乗客が接近したり、駆け込み乗車が多いため、乗客の安全対策として要求していました。アクシデント（乗客のドア挟みなど）が発生すれば、会社は車掌への責任追及を行います。会社は「今は設置する考えはない」との回答に終始しました。

新聞によると、ＪＲ東海の見解として、在来線の車両はドアの位置や編成の違いで、ホームドアの設置が困難とされています。本当にこれが理由なのでしょうか？職場では、リニア建設のための効率化＝経費削減が行われています。建設費捻出のためには、利益率が低い在来線への投資は後回しという考えが必然ではないでしょうか？

会社は、「中央新幹線も含めた３世代（リニア・新幹線・在来線）の鉄道事業の運営体制の再構築…」と言います。しかし在来線では、無人駅拡大などの施策により、旅客サービスの低下が目立ちます。

会社は、もっと職場の声に耳を傾けるべきです。